

2022 年度
事業計画書

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

公益財団法人 徳島新聞社会文化事業団

2022 年度事業計画

[1]第1回徳島新聞芸術振興次世代支援事業

2022年	4月12日	応募受け付け
	5月6日	審査、招待校・招待者決定
	5月中旬	招待チケット送付開始

※2022 年度から開始する新規事業。県内中学生を芸術性の高い展覧会や舞台公演に招待する。新規事業のため、県教委や中学校などに対し2月から案内・説明を始め、新聞広告や記事でも周知 PR に努めたが、新型コロナウイルスの影響でイベントの実施や開催時期が不透明なものもあり、学校単位での応募は3件、個人（家族）応募は延べ19件にとどまった。招待数にまだ余裕があるため、下期には再度、中学校に事業案内する。審査は学生の芸術活動に詳しい県、県教委、当事業団のメンバーが当たる。予算規模は約100万円。10校（クラブ）前後を招待する予定。

[2]第6回徳島新聞「輝け高校生」クラブ活動助成金事業

2022年	5月10日	応募受け付け
	6月中旬	審査
	7月上旬	贈呈式

※県内高校生のクラブ活動を支援。運動系と文科系の各5クラブにそれぞれ20万円を助成する。応募数が減少しているため、周知 PR に努める。

[3]設立50周年記念「徳島ニュースポフェス エイブル2022」

2022年	3～4月	関係機関と内容やスケジュール協議
	5月中旬	関係者や障害者団体などに周知PR
	6月中旬	申し込み締め切り
	7月3日	開催

※障がい者も気軽に楽しめるニュースポーツの祭典。事業団設立50周年事業として実施するが、好評なら毎年開催を検討する。近年脚光を浴びるeス

ポーツのほか、徳島では体験できない新感覚波動ARスポーツHADO、パラリンピック種目のボッチャ、カローリングの4種目の体験をしてもらい、その後競技会を実施する。午前、午後各2グループに分かれ、計68人の参加を募集する。優勝、準優勝、3位を表彰、参加者全員に食券を贈る。徳島新聞社、徳島新聞社会文化事業団、徳島県福祉事業団、県障害者スポーツ協会の共催。

[4] 設立 50 周年記念「ワクワク夜の美術館～世界の名画めぐり」

2022年	4月12日	第1次応募受け付け
	5月2日	第1次応募締め切り
	6月～7月	第2次応募受け付け、締め切り、協議
	8月6日	開催

※50周年記念事業として大塚国際美術館を夜間、貸し切って、親子を招待する。世界の名画に触れることにより、次代を担う若者に美術に高い関心をもってもらうとともに、夏休みのいい思い出をつくってもらうのが狙い。対象は、小中学生、高校生とその親100組。まず芸術振興次世代支援事業の中で募集し、その後一般募集する。当日は一通り鑑賞して食事後、自分が好きな絵を探してそれを模写してもらい、最優秀、優秀、佳作を選んで表彰する。

[5] 第 50 回徳島新聞奨学金事業

2022年	5月上旬	募集告知 高校への推薦依頼 選考委員委嘱
	6月30日	募集締め切り
	7月上旬	第1次審査（書類選考）
	7月24日	第2次審査（学力選考）
	8月28日	第3次審査（面接選考） 奨学生予定者決定
	9月中旬	奨学生内定通知
2023年	3月中旬	奨学生最終決定・通知
	下旬	奨学金贈呈式

※第50回を機に、奨学金の額や募集方法などを見直す。額は県内を

月 35,000 円、県外を月 65,000 円に増額。文系と理系に分けての募集をやめ、定員を減らす。両親の収入制限の文言を削除。また、商業高校や工業高校にも門戸を広げ、「専門高校枠」も設ける予定。引き続き、同時募集しているキョーエイ社会福祉事業団と協議を深め、より魅力のある奨学金制度に改める。

[6]第 4 回徳島ハート奨学生募集

2022 年	5月上旬	募集告知	高校への推薦依頼	選考委員委嘱
	6月30日	募集締め切り		
	7月上旬	書類審査		
	7月31日	作文と面接選考		
	8月下旬	奨学生予定者決定		
	9月中旬	奨学生内定通知		
2023年	3月中旬	奨学生最終決定・通知		
	下旬	奨学金贈呈式		

※母子家庭の子女を対象に大学入学時に支度金を贈る事業。原資は徳島市で医院を営む坂東正章氏による寄付金 100 万円。広告紙面などを通じて周知 PR に努めてきたこともあって、県民からの寄付が大幅に増えており、今回も定員を 7～8 名に増員して実施する予定。各人に 50 万円ずつ給付する。

[7]設立 50 周年記念「徳島障がい者芸術祭 拡大版エナジー2022」

2022年	4月29日	ねっとわ〜く A s 総会、協力依頼
	6月中旬	各施設、在宅アーティストに出品案内送付 作品募集を告知、近隣県の作品収集
	8月31日	出品申し込み締め切り
	10月3日	搬入・飾り付け
	10月4日	開幕
	10月9日	閉幕・搬出

※徳島新聞社、徳島新聞社会文化事業団、ねっとわ〜く A s の 3 者の共催。今回はこれまでの県内障がい者アーティストの作品に加え、事業団設立 50 周年

を記念し、兵庫県の「しあわせの村」からも障がい者の秀作を提供してもらい、展示する。場所は例年通り徳島県立近代美術館ギャラリーと同 21 世紀館多目的活動室。規模を拡大してより質の高い芸術祭を目指す。

[8]第 6 回徳島新聞ふるさと元気事業支援金

2022年	9月上旬	関係機関に周知、応募受け付け
	10月下旬	応募締め切り、審査
	12月上旬	贈呈式

※県内の若い中小零細事業者を支援するため、弁護士・中田祐児氏の寄付金を原資にして実施。創業5年以内の地域で元気な事業者1社に100万円を贈る。応募数は増加傾向にあるが、より広く周知PRに努める。

[9]第 51 回歳末チャリティー美術展

2022年	6月上旬	出品協力者に出品確認はがき送付
	8月中旬	出品協力を正式依頼
	11月15日	出品締め切り 目録の作成開始
	12月15日	開幕
	18日	閉幕

※昨年は第50回の節目だったため、タイトルを「歳末チャリティー美術展」に変更するとともに、入札制の導入や会期の延長、陶芸・美術工芸・漫画部門の拡充など、内容を大幅に見直して実施した。その結果、収益が倍増するなど大きな成果があったため、今回も同様の内容で実施し、新しい出品者の開拓にも努める。場所も昨年と同じアミコ東館6階催事場。

[10]第 50 回徳島新聞社会文化助成金事業

2023年	1月10日	申し込み受け付け
	2月10日	申し込み締め切り
	2月下旬	審査、通知
	3月中旬	発表、贈呈式

※障がい者・福祉・ボランティア・文化振興・伝統芸能等の団体であることが助成基準。ただ、選考に当たっては課題も少なくないため、50回を機に見直す。福祉や地域に根ざした活動を活発に行っている団体や、申請が初めての組織に優先配分するといった基本方針は変えないが、「少額でも多くの団体に」「事業内容がよければ毎年支給も」といった慣例は改めたいと考えている。具体案は秋の理事会に提示する。

[11] 設立 50 周年記念式典の開催

2022年	4月～8月	招待する奨学生OBのリスト作成
	8月～9月	講師や来賓選定
	12月～1月	来賓、招待者、関係者らに案内はがき
2023年	2月中旬	出席者集計、ホテル打ち合わせ
	3月4日	記念式典開催

※事業団の設立が認可されたのは1973（昭和48）年3月2日。その認可日に近い3月4日（土曜日）に徳島グランヴィリオホテルで開催。午後1時から奨学生OB交流会「愛郷会」設立総会、記念講演、記念シンポジウム、立食交流パーティーを順次開く予定。奨学生OBを招待するほか、記念講演・記念シンポジウムには一般県民も聴講が可能とする。参加人数については200～300人を想定。

[12] 設立 50 周年記念誌の発行

2022年	1～10月	原稿執筆、資料収集
	6月	祝辞執筆者に原稿依頼
	10～12月	校正、加筆、製本
2023年	1月	記念誌発刊、関係団体に送付
	3月4日	記念式典出席者に配布

※記念誌づくりは既に進めており、今年中に仕上げる予定。来年1月に発刊、500部づくり、関係団体や記念式典の出席者らに配布する。